



一般社団法人倫理研究所
東京都倫理法人会
TOKYO RINRI HOJINKAI

東京都倫理法人会広報誌グッドモーニング

GOOD MORNING

Vol.410

1
JANUARY
2022

特集

成功哲学

特集 成功哲学	02
令和4年度 年度はじめ式	12
第一ブロック決起大会/第三ブロック会長合宿	13
赤坂倫理法人会/日本橋準倫理法人会	14
後継者倫理塾	14
突撃！となりの倫友さん	15



逆境のなかで快進撃を続ける SADA 社の成功哲学とは？

株式会社オーダースーツ SADA

代表取締役 佐田 展隆

(晴海倫理法人会 副会長)

創業95年を迎える老舗企業である株式会社オーダースーツSADA(以下、SADA社)の佐田展隆社長(以下、佐田社長)にインタビューをさせていただきました。負債25億を抱えながら、倒産危機を2回も乗り越え、そしてスーツ業界の市場規模が縮小していると言われていたなかで業績を伸ばし続けるSADA社の成功哲学を伺いました。

■佐田社長の成功への軌跡

佐田社長は、当時社長であった父から「帰ってきてくれ」と連絡があり、パブル崩壊後いつ倒産してもおかしくない危機的状況にあったSADA社に入社しました。営業統括を任せられ、改革を次々と打ち立てて業績を立て直しに成功。その後、SADA社が投資ファンドのもとへ渡ったタイミングで、佐田社長はSADA社を一旦離れる事となりました。

しかし、東日本大震災の影響で赤字に転落し、再び倒産の危機に陥ったSADA社。ファンドからも見放され、佐田社長に再び声がかかり、2012年に社長に復帰。このままではまずいと佐田社長は、当時のSADA社が軸としていた製造卸業から小売業への転換を図ることを決意。経営幹部からは猛反対を受けながらも、強い信念のもと再建を進め、V字回復を果たすことに成功しました。

■佐田社長が大切にしていること

佐田社長は、言い続ける人です。「社長、その話は聞き飽きました」と言われるくらい、

一つのことを言い続けることを大事にされているといいます。「人は忘れる生き物です。だから何度も伝えないとわからないのです。」

伝え続ける上でSADA社では独自の『SADAフィロソフィ(哲学)』を作成し、浸透するまで従業員に何度も伝えていきます。

そして佐田社長は、とにかく先代(お爺さま)の教えを徹底されていると感じました。SADA社が2回目の倒産危機のときに、苦難の道だと分かっているSADA社に戻ることを選択したのは、先代からの「迷ったらいバラの道へ行け」という言葉があったからだそうです。また、先代より「人生は出足で決まる、今日できることを明日に伸ばすな!」と子供のときから厳しく言いつけられたために、「やるかやらないかでなく、やるしかない。思い立ったらやる限りのことをやるべきであり、やることで次の景色が見えてくる」と佐田社長は考えられています。

■佐田社長が倫理を学ぶ理由

佐田社長が倫理法人会に入会したきっかけは、大切にしてきた先代の教えと万人幸福の葉の十七箇条に書いてあることが同じで「これだ!」と確信され、学びたいと思ったそうです。

「万人幸福の葉こそが成功哲学そのものであり、日本人である私たちが成功するために行動しやすいようにまとめているのが、十七箇条です。だからやらない手はない」と

おっしゃいます。また佐田社長は、資本主義の父と言われている渋沢栄一氏が説いた「論語と算盤」を引き合いに出し、「経営者は論語だけでなく算盤も学ぶ必要があります。実は万人幸福の葉にも論語だけでなく算盤のことも書いてあります。」と説かれていました。

■インタビューを終えて

普通の人であれば心が折れそうな状況でも不屈の精神で乗り越えてきた佐田社長の中には、先代から受け継がれるフィロソフィが流れており、そのフィロソフィこそ万人幸福の葉の十七箇条に基づいているということを感じました。「学びは十七箇条に全て書いてある」と佐田社長がおっしゃるように万人幸福の葉を純粋に実践すればどんな苦難も乗り越えられるのではないのでしょうか。

取材:小林由香(むさしの吉祥寺④) 執筆:石塚正拓(北区④)、島村和実(江戸川区④) 撮影:大西規子(千代田区⑤)、木村直樹(福生・羽村⑧) 記録:畠健太郎(紀尾井町⑥)、松本ひろし(中央区⑤)



じっくりやれば、 必ず変わる！

株式会社ユニティ
代表取締役 石本 研
(大田区倫理法人会 会長)



「成功哲学ですか…、何でしょうね（笑）」と私たちのインタビューに気さくに答えてくれた石本研社長。競合がひしめく照明器具業界の中で、創業50年の歴史を誇り、全国に拠点をもち、従業員200名を雇用する株式会社ユニティの二代目社長。自らの経歴や体験を語っていただく中で出てきた数々の言葉に、今の立場や実績を築いた秘訣を感じました。

～入社するきっかけ～

父の会社で、学生時代アルバイトをしていましたが、将来は跡を継ごうという意識はありませんでした。ただ、楽しそうに働いている人たちを見て、「自分もこんなことがしてみたい」「この会社で働いてみたい」と純粋に感じるものがありました。その想いを父や家族にしっかりと伝え、思いを受け止めてもらい、新卒で入社することになりました。

～挫折～

入社してからは西日本をはじめ、各地で営業の仕事をしていました。その後、上海の販売子会社が立ち上げる際に、すかさず立候補して一人で奮闘しました。しかし、事業はうまくいかず、販売子会社の閉鎖が決まり、その責任を取って降格をし、1年間会社を休職しました。休職中は大学院に通い、自分を見つめ直し、経営についても勉強しました。

～社長になったきっかけ～

職場に復帰し、グループ会社に出向していた2012年。今まで会社を支えてくれた役員の1

人が退任することになったことをきっかけに「このままではいけない！」と危機感を感じ、大学院で学んでいる時に、練ってきた経営計画やビジョンを3日間でまとめました。そして、父である社長をはじめ重役たちの前で、「ユニティをこうしたい」という一心でプレゼンを行い、それが認められ、取締役役に就任しました。その頃から跡を継ごうと腹を決めました。

～焦らずじっくりと～

取締役役となってからも、全てが順調に進んだわけではありません。提案した経営計画を進めるにあたり、経営者である父と意見が食い違ったり、思うようにいかず、このままでは自分が会社から去らねばいけない危機もありました。それでも「焦らずじっくりやれば、必ず変わる」と信じて、諦めずに進めていきました。自分は思ったより、しつこいタイプだと感じます。「このままではいけない」と危機感があるから、こうしよう！と決めたことは、手段や機会を変えながら、じっくりとやり抜くのです。

～先代への思い～

父は会社を立ち上げ、真面目一本で仕事に取り組んでいました。新しいことが好きで、業界



の慣習やタブーを打ち破ってきたイノベーターでもあります。ワンマンで強引なところもありますが、何事においても自らがまず動いていました。また、何かをお願いするときは、一人ひとりとコミュニケーションの時間を取り、社長自ら直接会って伝えていました。だからこそこれだけの規模の会社を築くことができたのだと思います。私も経営者になり、父の姿勢を自然と受け継いでいると感じています。

～これから起こす変化～

最近では、照明を使った「健康経営」を目指しています。自分がまず健康であるために、ランニングは欠かしていません。新しい照明を使ったモデルルームを作るために大阪へ出張した時も、ランニングシューズを持っていきました。健康のためにできることをコツコツとしております。まずは自分自身が行動で示さないと社員に伝わらないですからね。じっくりと取り組み、必ず実現していきます。

大田区倫理法人会の会長に今年度から就任した石本社長。

これまで会社の経営で培った経験が会の運営にも生かされているそうです。

何事においても「自らが動く」率先垂範の精神で取り組み、「じっくりやれば必ず変わる」と腹を決めること。この姿勢こそ、組織の変革を進めていくことができる石本社長の成功哲学であると感じました。

取材：原見由美子(晴海⑦)、富岡健一(湯島⑦)
執筆：原見由美子(晴海⑦)
撮影：富岡健一(湯島⑦)



倫理指導を経営に生かす

— とにかく素直に実践! —

中嶋商会株式会社代表取締役 中嶋 秀樹
(東村山市倫理法人会 会長)

コロナ禍で大変な社会状況の中、倫理を経営に取り入れて堅実な経営をしている会社があります。今回取材をさせていただいた中嶋商会株式会社もその一つです。

中嶋秀樹社長(東村山市倫理法人会会長)は、奥様のお父様が経営されていた会社を引き継いで現在に至っています。中嶋社長がどのような考えのもとで経営を行っているのか、そして倫理の学びをどう生かしているのかご期待です。

中嶋商会の業務「モノづくりの橋渡し」

大学卒業後は建築資材会社の営業マンでしたが、妻の父が早期退職して「中嶋商会」を設立、義父に請われて入社しました。当社は職人が金属加工と組み立て、協力会社約70社と分業し業種をまたいでの工程管理や提案も行い、完成品を納入する、いわば「モノづくりの橋渡し」をしています。主な顧客は空調や冷蔵庫関係の制御卸品メーカーなどです。現在は、営業マン時代の経験や人脈を生かして、鉄道車両メーカーにも販売を展開しています。

義父との確執「ドス黒い心」

職人気質の義父はモノづくりに強い反面、私の入社当時はいわゆる「どんぶり勘定」でした。金融機関からの評価を上げるためにも、経営革新計画を作成することになった私は、会社の財務状況を目の当たりにし、資金繰りに頭を悩ませることが多くなりました。

義父の経営に疑問を持つようになり、義父との間に確執が起こり始め「ドス黒い心」を抱くようになりました。

そんな中、2019年7月に倫理法人会に入会しました。2020年7月に工藤直彦法人スーパーバイザーによる「明朗愛和」の解説で、「ドス黒い心のままだと取り返しの付かないことが起きる」と聴き、これはまさに自分のことだと直視しました。

本来であれば、3カ月待ちの工藤直彦法人スーパーバイザーによる倫理指導ですが、偶然にも1カ月後に空いていると聞いてすぐに申し込みました。1カ月の間に内観をして問題を整理した上で倫理指導に臨み、義父との確執についての解決方法を聞いたところ「妻の意見は常に正しい」「妻の希望を最優先にしない」と言われ、実践することになりました。

倫理指導「かみさんは神様」

倫理指導を受けた直後に、早速実践する機会がありました。妻から「台所のお酒のストックが邪魔だからどけて」と言われ「これだ!」と思い、断捨離を即行で実践しました。しかし、すぐには徹底できず、素直に指導を実践しなかった時にはケガや事故を起こすという気づきもありました。

そんな中で「妻の意見は常に正しい」「妻の希望が最優先」という実践を継続することにより、今までは軽く受け止めていた身近な人の意見に対して、しっかりと耳を傾けるこ

とができ、そして身近な人の話を聞くことの大切さを痛感しました。

義父との会話においても、それまでであれば言い合いになっていた些細な日常会話や事業の話なども、素直に義父の言うことを聞くことができるようになりました。そして、必要なときには謝ることで笑顔が増えていき、義父とのコミュニケーションが深まってきました。

成功には、純粋倫理をいかに現場に落とし込めるかが大切だと思っていますが、倫理指導を純粋に実践したからこそ、義父との関係も改善され、義父を慕って集まった従業員とともに、現在のような社会の状況が厳しい時でも、なんとか会社を運営できていることに感謝しています。

取材陣に対しても終始、笑顔と細やかな気遣いで気さくにお話をいただき、ご自分の失敗も素直に語られる姿に、中嶋社長の人柄の良さをしみじみと感じました。

昨年来のコロナの影響で、業績が下がり悩まれている経営者の方が少なくありません。そんなときこそ、毎週経営者モーニングセミナーに参加し、そして倫理指導を受け、実践項目を純粋に実践してみることが成功の糸口になるのではないのでしょうか。

取材：巨崇広(港区③)、長尾睦子(日本橋③)、小林英司(練馬区③)、金子恵子(町田市③) 記事執筆：巨崇広(港区③)



成功への終わりなき行動選択

株式会社玉寿司

代表取締役 中野里 陽平

(晴海倫理法人会 副会長)

何十年も経営を続けることが難しいといわれる飲食業界で、大正13年に創業し、暖簾(のれん)を守り続け、もうすぐ100周年を迎える築地玉寿司(以下、玉寿司)4代目の中野里陽平社長から、倫理と経営に対する考え、成功の要因を伺いました。

＜倫理をいかに経営に取り入れるか？＞

いきなり会社に「倫理経営をする」と持ち込んでも、社員は相当違和感があると思います。そうではなく、社長が倫理のエッセンスをかみ砕いて伝えなければいけません。当社は活力朝礼を取り入れて30年になりますが、中途採用の板前さんも入社します。彼らからすると、朝仕込みを優先したいのに「なぜ朝礼をするのか?」となります。それを「倫理経営だから」と言っても納得はしてくれないでしょう。そうではなく、朝礼の意義をきちんと伝えることが大切です。「前日、お客様からいただいたクレームによって仲間とぶつかった」「家を出るときに奥さんと言いつつ合ってしまった」そんな気持ちを朝礼でリセットし、お客様から「ありがとう」を1日いくついただけたかという我々の仕事の目的を再確認し、目的を達成するために一緒に働くチームメンバーの顔ぶれを確認することができます。

玉寿司では、私なりに倫理経営のエッセンスをかみ砕き、社員に浸透させ、一貫経営で100年続く寿司店でありたいというビジョ

ンを掲げています。

＜成功とは？カギは二重の構造＞

成功は二重の構造になっていると思っています。一つはお店が繁盛して業績がいい、社員も生き生きしている、お客様の評判もいいなど、他人が判断する分かりやすい客観的な成功です。やはり、堅実な黒字経営で適正利潤を出し、未来投資をし、社員が成長する環境を整える、全部そろってはじめて成功といえると思います。

もう一つの成功は、成功に至るまでの核となる行動の選択ができるようになることです。仕事は、こうなりたいという強い意志の力で一日一日自分と向き合う、いわば戦いです。良い習慣、実践が大切と言われますが、私は行動の選択こそが良い習慣となり、成功に結びつくと考えています。

もちろん、私も含めて人間はそんなに強くないので、たまには「サボりたい」「人にイライラする」という時もありますが、そのような感情に引きずられた行動選択はマイナスになりがちです。

例えば、社員が生き生きする職場環境をつ



くりたい、単会なら、この会に所属してよかったと思えるような会を作りたいと思い、それを実現するためには、自ら挨拶をし続けるなど、意志による倫理的な行動選択が必要だと思っています。

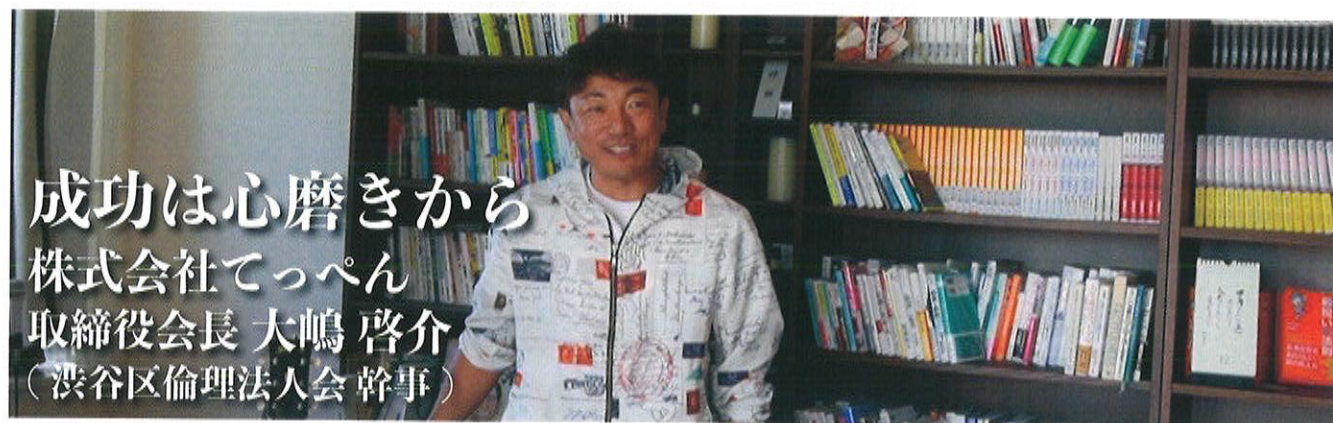
感情に引っ張られないためには、学びも重要です。書籍を読む、セミナーに参加する、優れた人の話を直接伺うなど、自分の考えの質が落ちないように意識しています。メディアの情報に触れ続けているとマイナスの感情に引っ張られやすくなるため、意識的に自分の考えを上げる時間が必要です。倫理では、きっと経営者モーニングセミナーがその時間にあたるでしょう。

中野里社長のご厚意で、予定よりも多く時間を割いていただき、ここには書き切れなかったことも含めて丁寧に答えてくださいました。中野里社長のお話から、成功の要因は「自分の感情にとらわれず、常に理想に向かっての行動選択をしていくこと」だと学びました。日々の行動が意識的な行動選択に基づいているか振り返ってみることが、成功につながる道の一つではないでしょうか。

取材：畠健太郎(紀尾井町⑧)

執筆：吉澤光彦(江東区⑧)、宮本早苗(新宿区⑧)、木村直樹(福生・羽村⑧)、石原堅(八王子市⑧)、畠健太郎(紀尾井町⑧)、田中秀太(練馬区⑧)

撮影：木村直樹(福生・羽村⑧)、石原堅(八王子市⑧)、吉澤光彦(江東区⑧)



成功は心磨きから 株式会社てっぺん 取締役会長 大嶋 啓介 (渋谷区倫理法人会 幹事)

『本気の朝礼』がテレビや雑誌などで数多く取り上げられ、17年にわたる人材育成の経験を生かし、現在5つの研修を軸として、飲食店経営および研修事業を行っている株式会社てっぺん取締役会長の大嶋啓介さん。そんな大嶋さんにインタビューさせていただきました。

◎自分をパワースポットに

「あなたが思う成功とは？」

今回の特集テーマ『成功哲学』を踏まえ、私たちがぶつけた質問に、大嶋さんは一瞬考え込みました。

「まだ見つかっていないかもしれませんが。今はまだ成功しているとは言えないし、何が成功か分からない。人生の最後に、大好きな家族や仲間たちに囲まれて、みんなが笑って『本当に楽しくて、最高の人生だった』と思えるのが成功かもしれない」。

そう言ってにっこり笑う大嶋さん。

自分がこうでありたい10箇条を決めていて、その一つが「いつも自分がパワースポットでありたい」。だから、いつも大嶋さんは笑顔でいるそうです。

大嶋さんは、さらにこう続けました。

「自分の中の理想を現実にできた瞬間が、成功の一つの形なのかな？でも、到達した時が成功なのではなく、過程も成功の一つだと思っている」とのことです。

◎挫折からの心機一転

中学生の時、けがで野球を挫折、受験では行きたい学校に行けず、就職した時も一年で退職と、挫折を繰り返してきた大嶋さん。祖父母の影響を受けて飲食を志し、出会ったところが人間力や成長を大切にする会社で、それが次に進むきっかけとなりました。自分は一体、何が一番欲しくて、何が本当にやりたかったのか？それを見つめ直した結果、出てきたのは「自信と勇気、心から分かち合える仲間、そして人が輝ける日本一のお店を作りたい」でした。大嶋さんは「儲

けたい、会社を大きくしたい」というのは全くなかったようで「とにかく最高に仕事に誇りを持てる人を作りたい。子供たちが尊敬できるような輝いている大人を増やしたい。それを実現できる大人の働ける店を作りたい」。それが30代の頃の目標だったそうです。

◎ワクワクできる目標

「多くの人は目標設定に間違いがあります」と大嶋さんは言います。

「大半の人は『目標に対してやらなきゃいけない』と義務感でやっていますが、目標とはそれを達成した時のことを考えるとワクワクして興奮が止まらないようなもの、心から達成したくてたまらないものでなければなりません。可能性を引き出してくれるもの。限界を突破しないと達成できないようなもの。そういう目標なら目指したいと思うでしょう？」

逆に我々に問い掛けてくる大嶋さん。

確かにそんな目標を取り入れられたら、どんな事業であっても成功に導けるのではないかという気がします。

◎困難に直面したときの手順

「困難に直面したとき、手段と方法を考える人が多いですが、向き合う心が先でしょう。乗り越えた先にどんないいことがあるか？何を学べて、どれだけ成長できるか？感謝できることは何か？そういうプラスの問い掛けをするのです。

そうすると、この困難ってすごい成長や学びがあって、これを乗り越えたら…と考えると心がワクワクします。困難に対して向き合う心ができる。そこで初めて手段と方法を考えるのが手順なのです」。

◎朝礼の目的

朝礼についても伺ってみました。

朝礼を研究し尽くしてきた大嶋さんによれば、「朝礼は『心を磨く』ための手段です。自信がない人が自信をつけ、ネガティブな考

えをポジティブに変えるには、習慣によるトレーニングが必要です。いい習慣が人格形成をして良い心を作る、積極的な心、前向きな心、感謝の心のトレーニング、それができるのが朝礼です。朝礼という習慣によって人は変化し、目の輝きが変わっていく」と語ってくれました。

◎倫理は学びの答え合わせ

倫理法人会(以下、倫理)との出会いは、大嶋さんの人生にどのような変化を与えたのでしょうか。

「謙虚でいられることを学びましたね。倫理の大先輩がもっと成長したくて学んでいると聞いて、それまで学び終えた気になっていた自分が恥ずかしくなりました」。

『万人幸福の契』で、今まで学んできたことの答え合わせをすることも多いそうです。喜びと感謝の心。それを学ばせてもらったのが倫理だとのこと。

最後に、成功の秘訣を伺ったところ「それはやり方じゃなくて心のあり方だと思います。『明朗、愛和、喜働』の精神で、喜びのエネルギーと感謝のエネルギーをチームとしていかに引き上げるか、どんな心で何をするかという『心のあり方』が秘訣だと思います」と締めくくられました。

今回の大嶋さんのインタビューを通じて、私たちも「心のあり方」を学ぶことで成功に近づけるのだと思いました。みなさんもぜひ、経営者モーニングセミナー前の朝礼にも参加して、良い習慣のトレーニングをしてみてください。

取材：武田光留(墨田区⑤)、金崎嘉治(品川区①)、木村直樹(福生・羽村⑧)、渡辺靖仁(三鷹市②)、由良瑞砂(むさしの吉祥寺②) 執筆：由良瑞砂(三鷹市②)、渡辺靖仁(むさしの吉祥寺②) 撮影：木村直樹(福生・羽村⑧)、由良瑞砂(むさしの吉祥寺②)

脈々と受け継がれる「人助け」の精神



石川酒造株式会社 代表取締役蔵元 石川彌八郎
(福生・羽村倫理法人会 相談役)

東京都福生市に酒蔵を構え、創業約160年の歴史を持つ石川酒造株式会社。現在は日本酒、ビールの製造のほか、酒蔵レストランやコンサートホールを持ち、数々のイベントを企画しています。この歴史ある石川酒造の代表取締役蔵元を務めるのが石川彌八郎(いしかわ やはちろう)さんです。経営理念について、そしていくつもの新規事業を成功に導いた成功哲学について伺いました！

事業継承の際の苦難と変革

石川家18代当主である石川彌八郎蔵元(以下石川蔵元)が入社したのはちょうどバブルがはじけた1990年でした。当時から日本酒の消費量は減少しており(1973年をピークに現在は1/3にまで減少)、石川酒造もその波にはあがらず、人員整理をするなど苦難の時代だったといえます。しかし1996年、地ビールがブームになっていたことに目を付けていた石川蔵元のところに、地ビールレストランへのビール提供の話が舞い込みます。これを機にビールの製造やレストラン経営といった新規事業を打ち出すことを決心し、社内の反対を押し切り、1998年に2億円を投資。今では日本酒と並ぶ主力事業の一つとなっています。これまでさまざまな変革、チャレンジを進めてきた石川蔵元。どのように新しい事業に挑戦したのか？アイデアや心構えを聞いてみたいと前のめりだった取材チームに、少し意外ともいえる言葉をいただきました。

チャンスは待つつかむ

石川家に江戸時代から伝わる日記をひもといてみると、3代ごとにChange(チェンジ)、Challenge(チャレンジ)、Charge(チャ-

ジ)の「3つのC」の時代を繰り返しているとのことでした。「いろいろな事業にチャレンジしているように見えるかもしれないけど、私の代はChargeの代。16代がChangeし、17代がChallengeした後の『Charge』、つまり充実の代だと思っている」と石川蔵元。成功したクラフトビール事業も、きっかけは「人助け」。他にも正統派ハムメーカーの「大多摩ハム」との提携事業やカプセルホテルの運営への協力、地域の町おこしイベントへの出展など、どれも自ら新しいことにまい進したというよりも、むしろ偶然の人とのつながりや頼まれごとから生まれたものだったそうです。

経営理念と成功哲学

「石川酒造は、地域の誇りであり、自らの誇りである」

これが石川酒造の経営理念であり、会議の前には毎回全員で読み上げるそうです。「誇り」という言葉が2回繰り返されているのが印象的ですが、石川蔵元は「誇りがあれば、世の中から外れることはなくなる」とおっしゃいます。

そして、「人との出会いは偶然だけど、そこから仕事やチャンスにつながるかどうかは普段の行いによるもの。与えられた仕事を天職だと思って全うし、『職業奉仕』つまり仕事を通じて人助けをする。その上でみんなが欲しいもの、必要なものを適正な価格で提供して、お客様が満足してくれたらリピーターとしてまた来てくれる。そうやって人助けの精神を持ちつつ、バランスをとって物を売っていたら、商売はうまくいきますよ」と語

られます。

ハーモニカ奏者としての活動

石川蔵元はハーモニカ奏者としても活動されています。きっかけは酒蔵を改修したホールでコンサートを開いていた際に、楽器演奏をすすめられたことでした。猛練習の末、プロとして各地で演奏会を開くほどの腕前に。出演料は全て赤十字社などに寄付していたことからその実績が認められ、2008年には紺綬褒章を受勲されました。現在はこどもホスピスの支援をされているそうです。仕事への向き合い方、そしてハーモニカ奏者としての活動も、根底には「人助け」の精神が感じられます。代々、地域の相談事によってきた石川家の伝統が脈々と受け継がれているのかもしれませんが、「人助け」からご縁が繋がり、道が開けていくことを石川蔵元の話から学ばせていただきました。

【酒蔵現地レポート】

晴天に恵まれた2021年11月28日(日)、『酒飲みのテーマパーク』石川酒造へ。1880年建築の「本蔵」、樹齢400年の「夫婦榎」、1897年建築の「新蔵」(福生・羽村MS会場)など、趣のある酒蔵は圧巻でした。実は、取材チームのもう1つの楽しみが野外ライブ「ガーデン Jazz ライブ」。最高のバンド仲間とともに、ハーモニカを奏でる石川蔵元。ご自身が心から楽しみ、周りを楽しませる姿はエンターテイナーそのものでした。自分の個性を伸ばし、人々のために働き、みんなの喜びが生きがいとなり、真の幸福が自分に返ってくる。これは「尊己及人」の実践なのではないかと思いました。あなたも人生を思いっきり楽しんでみませんか？ところで、取材チームは見学後、ビールと日本酒を片手にライブを堪能しました！ぜひ石川酒造へ足をお運びくださいませ。何かヒントをつかめると思います。

取材：井田孝(中野区⑥)、秋元亜希(文京区⑥)、渡辺剛(豊島区) 執筆：秋元亜希(文京区⑥)
撮影：井田孝(中野区⑥)、秋元亜希(文京区⑥)



個性を生かした成功哲学 ～後継者倫理塾で学び、実践したこと～ 株式会社三益 代表取締役 東海林美保 (日本橋準倫理法人会 会員 / 東京都青年委員長)

「日本酒といえば、三益です」

SNSのコメント欄に載っていた一文からは、いかにお客様から愛されているかが分かります。多くのメディアにも取り上げられている三益酒店。先代の東海林孝生氏から事業承継し、三代目代表取締役となった東海林美保さんにお話を伺いました。

お客様のほうがお酒に詳しい

小さい頃から酒屋で働く両親の背中を見ていた美保さん。「いつかは店を継いで親孝行したい」と思いつつも、大学卒業後は一般企業に就職し、自ら本社勤務を希望するなどバリバリと働いていました。ところが、母親の病気がわかり、家族と家業を守るために大好きだった会社を辞めることを決意、家に戻ります。

ところが、戻ってみると様々な問題と直面します。まず、父親は、蔵元を開拓し素晴らしい日本酒を卸してもらえ関係を作っていましたが、売り先には無頓着でした。また70年が経過した店舗には穴や雨漏りが。そして、一番悩まされたのは、父が仕入れた地酒を愛する「お客様」との関係でした。「20代そこそこの小娘が何を言っても駄目でした。だってお客様のほうがお酒に詳しいのですから」

父親に叱られる事もしばしば。親子げんかは近所で有名になるほど。苦しくて、ふたつ下の妹と一緒に泣くこともありました。

居場所を作る

「自分の居場所は自分で作る」。小さい頃から父親に言われていた言葉です。日本酒に詳しいお客様と向き合うために、姉妹で酒師の資格を取得。妹は料理学校にも通い、2駅先にある曜日限定の店舗で「三益

バー」をはじめました。ママチャリのかごに一升瓶を6本載せて通い、深夜まで働いて翌朝には酒屋で接客する日々。そのうちに、三益酒店のイメージは『個性的なおやじの酒屋』から『姉妹が頑張っている酒屋』へと少しずつ変わっていききました。

一年間われば人生が変わる

そのころ父親の勧めで倫理法人会に出会いました。当時の後継者倫理塾の米元正子塾長の「人生の中でたった一年この輪の中に入れば、あなたは変わる」という言葉を信じ、「仕事を抜けて参加するからには必ず結果を出す」という覚悟で、入塾を決意しました。

塾では、仲間たちとの梨の勉強や実践報告を通じて、

1. 命を授けてくれた親の大切さ
2. 師(塾長)と仲間の存在
3. 夢を明確にすること

さらに修了後の3年間、平野塾長のもと、後継者倫理塾の運営に携わる中で「仕事と倫理は両輪」という言葉に共感し、倫理で学んだことを三益酒店で実践することにしたのです。

ないもの探しからあるもの探しへ

それまでは、資金がない、売上が少ないなど「ないもの」を見ていましたが、「あるもの」を探すようになりました。三益酒店に「あるもの」に目を向けた結果、できたコンセプトが「女性が活躍できる酒屋」です。ひと昔前は、酒蔵に女性が入ると酒が腐るといわれたこの業界だからこそ、特長になると考えました。塾の仲間に頼んで、入り口を中心に店舗構えを改修、ロゴも刷新しました。次に、赤羽駅からすこし離れた立地を逆手に取り、「珍

しい地酒が入る穴場の酒屋」というブランドを確立しました。そして、店舗の空気づくりを大切にしました。アルバイトを含めた仲間を大切に、「地酒が好きなお客様同士をつなぐ」ために、酒屋の隣に角打ち(立ち飲み)スペースも作りました。

父がつかない蔵元との絆、三姉妹でお客様へとつないでいく

コロナ禍では、飲食店への卸しがなくなり、角打ちも開けなくなりました。でも、倫理の学びに立ち返り、何ができるかな、と考えれば「打つ手は無限」です。私たちはお酒を造れませんが、「蔵元とお客様をつなぐ」ことはできます。蔵元がお酒に込めた思いと、お勤めのおつまみをセットで送るとともに、オンラインでつなぐ定期便や、塾生にサポートしてもらい、Youtube配信も始めました。コロナ禍だからできる改修も行い、売り上げは順調に伸びています。

お客様と蔵元に愛される三益酒店。「地域貢献のため、立ち飲みスペースを活用して子供食堂を運営し、今年で4年目を迎え、もっと根差していきたい」と美保さんの目には、次の目標も見えています。

その成功の基本が養われた後継者倫理塾。若い経営者の皆さまも今一度、入塾を検討されてはいかがでしょうか。

取材：福島理恵子(世田谷区①)、金崎嘉治(品川区①)、杉林強(立川・昭島①)、菊池秀夫(いたばし①) 撮影：杉林強(立川・昭島①)
執筆：福島理恵子(世田谷①)、金崎嘉治(品川区①)



「山重で働けてよかった」と 言われる会社を目指して

株式会社山重 相談役 北武 洋（葛飾区倫理法人会 相談役）
代表取締役 杉山 博（吉川・松伏倫理法人会 副会長）

葛飾区倫理法人会所属の株式会社山重（以下、山重）の北武洋相談役（3代目社長）と杉山博社長（6代目社長）に「成功哲学」について伺いました。

山重は昭和32年創業の漬物及び食品の間屋です。単なる間屋業に留まらず、メーカーと共に消費者のニーズに合わせた新製品の開発をも手掛けることを目指しております。

<高くついた授業料>

山重の2代目社長は商品開発にとっても意欲的でした。北海道で野菜に鮭を挟んだ漬物を開発、味もすこぶる評判でいよいよ東京で販売することとなりましたが、いきなりのトラブル発生。「鮭の生臭さが発生して、とてもじゃないが売り物にはならない。北海道では問題なかったものが、なぜ東京ではダメなのか」。答えは気温の差でした。大量に製造した漬物はダンブ3台分、金額にして3000万円が東京のゴミ処理場「夢の島」行きとなりました。「やはり間屋は間屋業の本業をやるべきなのか」と諦めかけましたが、2代目社長の情熱はそんなものでは消えません。苦節3年、臭みの原因を突き詰め、見事製品化に成功しました。高い授業料にはなりましたが、山重のあきらめない精神はここで身に付いたそうです。

<発想の転換>

「漬物」は保存食、たっぷりの塩分を漬け込むことで1年以上の保存が効く、梅干しにおいては数十年の物もあります。それが「漬物」において普通ですが、山重の開発の発想はまるで違います。賞味期限を短くする逆転の発想です。そこには2つのメリットがあると言います。1つ目は回転率の速さで保存食から生物扱いにすることで消費が活発になることです。2つ

目は野菜本来の美味しさです。漬け込めば漬け込むほど野菜本体のシャキシャキ感や風味が損なわれます。短い賞味期限の漬物は新鮮で美味しく、塩分濃度を下げて体にも優しい新しい食の提案です。山重の革新はこうして続いていきました。

<倫理との運命的出会い：運命自招>

そんなときに2代目社長が急死し、後を継いだのが北相談役でした。しかし、就任してから経営状況は悪化。苦境のときに出会ったのが倫理法人会でした。そして、入会した翌日から掃除を実践。会社に来る道も、家も車も掃除！掃除！掃除！！掃除は仕事の基本である。（凡事徹底）そのことを根底に仕事を行ったことで業績は回復し、順調に売上を伸ばしていきました。

<苦難と気づき：苦難福門>

3代目として順調に業績を伸ばしてきた北相談役ですが、またしても山重に苦難が起こります。大型量販店の倒産、巨額の不良債権を抱え、北相談役は自宅を売る覚悟を決めます。奥様にそのことを伝えると「あなたが稼いだお金で建てた家だ、好きにしていっていい」と言われたそうです。そうすると人とは思えないもので、そうなるのはならぬと逆に踏ん張ることになったそうです。腹を括った北相談役は社員を集めて、正直に苦しい現状を話し、「みなさんの給料は必ず払う」と約束しました。社員は家族、その強い思いがあったからでしょう。良いことばかりを言うのではなく悪いことも共有する、そうすることで社員も頑張ろうと奮起し、その年はなんと増収増益になったとのことでした。そこからの山重は社員だけでなく取引業者への支払いに関しても「早め・キッチリ」を心が

け、それが信用・信頼へと繋がっていったようでした。

<倫理経営の重要性>

しかし北相談役が社長を退き4代目、5代目は倫理経営から離れてしまい業績もジリ貧になっていきました。

そして経営は6代目杉山社長へと受け継がれました。

杉山社長は「当たり前のことを実践させてくれるのが倫理だ」とおっしゃいます。「自分たちが会社に通勤してくる道は、お客様も同じ道を通ってこられる。だったらゴミ一つ無い道にしよう、気持ちよく通ってもらおう」。そうやって毎日掃除をされているのだと言います。杉山社長は1代目から5代目までの社長を見て来て、良い所だけ真似て悪いところは反面教師で学び、今後の経営に役立てたいとおっしゃっていました。

最後に杉山社長に「夢」を聞きました。杉山社長の夢は、社員が定年を迎えた時に「社員はもとより、家族の人々からも、山重に勤めて本当に良かった」と言ってもらえるような会社を作ることだと嬉しそうに語っておられました。やはり会社はどこまで行っても人なのだと気付かされます。

そして、我々も山重のような素晴らしい会社の経営者から沢山のことを学び、日々の仕事や経営に生かして、日本の企業を元気にしていこうではありませんか！！

取材：ブルース・テイラー（文京区⑤）、松本ひろし（中央区⑤） 畠健太郎（紀尾井町⑥）

撮影：ブルース・テイラー（文京区⑤）

執筆：松本ひろし（中央区⑤）、武田光留（墨田区⑤）、大西規子（千代田区⑤）、清水智子（東大和・武蔵村山準⑤）

東京都 47 単会の会長に訊く

四谷	三澤悦郎	単会を盛り上げることで、会員が参加して意欲を高める。それにより、会員企業の発展を図る。
湯島	今井良明	どんな分野でも多くの人に直接間接に良い影響を与え、その人達の人生に貢献し続けられること
紀尾井町	澤田省悟	自分が存在することで、家族、社員、仲間が、皆んな朗らかで楽しく生活ができることです。
杉並区東	荻野 洋	目的を共有する仲間とともに目標に挑み、成し遂げた時に得る物。
立川・昭島	吉田正人	家族が笑顔、社員が笑顔、友人が笑顔、回りの人たちが物心共に恵まれ、笑顔に囲まれたら成功です。
大田区	石本 研	人それぞれ。自分の目的に沿って掲げた目標を達成し、自身の気持ちが充実している状態。
練馬区	中野宏一	物心ともに豊かになり、その豊かさを身近な人と分かち合い、その輪を世界へと広げていくこと。
上野	三石崇	「今ここ」を大事に、一瞬一瞬目の前のことに取り組み、積み重ねた先に得られるもの
赤坂	川上美保	365 日 24 時間、誰もある平等の時間！皆が 1 秒でも多く笑顔でいられる時間を作れていること。
中央区	土橋 猛	正しい目標設定とその達成。但しそれは正しい方法、努力の積み重ねによって得られるもの。
銀座	飯田友一	自己革新を常に図り、能力を 101% 発揮することによって、世のため人のためになっている状態。
目黒区	木村佳寛	なりたい状態に向かう時、そうなれることに疑いのない自分であることです。
あきる野市	矢口 完	成功は自分が決める事、成功者は人が認める事、明日の朝 4 時に起きる目標を達成した事も成功である
渋谷区	阿部晋悟	健康であり家族が仲良く生き甲斐のある仕事をして、他人の幸せも喜べる事
福生・羽村	半澤比呂美	自分が幸せで、周りの人も幸せで、人から応援されること
東村山市	中嶋秀樹	出逢ったみなさんが、笑顔で元気に朗らかに、ワクワクと楽しい気持ちでいらっしやる事です。
晴海	薄倉雄一郎	自身が物心共に豊かな状態になり、周囲にもそれを享受し、良い人間関係が築けた状態
足立区西	首藤広行	目標に向かい日々努力して、自分自身が輝く人生を送り、人に元気を与え、感謝をされる人間になること。
中野区	稲村徹也	成功とは、幸せになる事であり、自分や人の夢を叶えたり、キセキを起こすことだと思っています。
港区	中島高虎	家庭も会社も其々仲良く、良い雰囲気醸し出した場となっている状態が継続している事。
府中・調布	植田幸宏	子供が 3 人います。それぞれが幸せな家庭を築く事が私にとって成功です。
北区	小澤陽一	物心共に豊かな状態です
葛飾区	二葉節子	健康な肉体と健全な精神を保ち、心を開いて沢山の事を吸収し、インスピレーションを日々高められる人
町田市	柏木英一	成し遂げたい事に、逃げないで、あきらめず、失敗がなくなるまで、チャレンジし続ける事

「成功とは？」

豊島区	竹澤 薫	日々の習慣・実践により人間的成長を果たし、かわりのある人に貢献する人生を送ること
千代田区	木村光範	常に心からの笑顔を以て人と接することができ、多くの人に真の笑顔を与えることができている状態
むさしの吉祥寺	坪岡克法	絶対倫理のもとまっしぐらに進み、気づくと同時に行ない、あらゆる機会に善処し、目的を定めたら終始一貫やりぬく
青梅市	柴崎 記賢	必要な時に対応できる人脈を持ち、携わった人が、参加した喜びを得るようになった時のこと。
品川区	加藤直人	思い通りの人生を送ること。大切なのはその「思い」ですので、それを間違えない為に倫理を学んでいます。
三鷹市	吉野 勇	倫理経営の必要性が認知され地域社会に年々倫理経営企業が増えていく状態になること
墨田区	森園文恵	明朗、愛和、喜働の大切さを教えてくれた「倫理法人会」に恩返しをする事が私にとっての成功です。
ひの多摩	大沢 英史	一生、好きな仕事ができること！
八王子市	甲斐美利	好きな仕事に熱中し苦しみを乗り越える度に喜びと報酬を得る。多くの喜びがより強い心にしていく
日本橋区	山本光輝	接した人が笑顔になり、そのことで自分も嬉しい気持ちになる。それが「成功」だと考えています。
浅草	野口明雄	優れた人間力を持つこと
東大和・武蔵村山	坂本翔	自己革新を続けながら、結果的に周りに幸せを生んでいく事
渋谷区中央	金内 聡	成功の大小ではなく、天職の仕事でお金を頂き生かして頂いてる事自体成功だと感謝しています
文京区	宮田 剛志	自分の事を心の底から『世界一幸せだ』と思える人生を送れること。どうすれば思えるかは模索中。
世田谷区	竹内靖治	成功とは、人の助けに感謝しながら、自己の目的を自らの念いで計画的に達成する過程の事である。
深川	及川寿彦	成功とは死後に評価されるものだと思う。死ぬまで通過点。生涯純粋倫理の学びと実践の繰り返し。
小金井市	高岡 裕	【前】物心両面の納得感と達成感。【今】溢れ出すワクワク感で自分と周囲を笑顔にできれば成功。
杉並区西	中島正樹	心から打ち込める仕事を、情熱を持ち続け、努力を怠らず、最善を尽くしながらやり続けること
いたばし	玉広賢	悪い個性（たち）を改め、好きになれる自分に近づくことだと思います。
足立区	宮井 晴史	嫁にお金の苦勞をさせない。収益物件で生計ができる。地域に頼られる企業である。充実感の持てる仕事。
江戸川区	求 由美	変化し続けることです。あらかじめ設定された価値のある目標に向かって実現していくことです。
江東区	細田隆一	私は明るく常に笑顔を絶やさない。人の話を素直に聞いて喜んで受け入れる。協力一致して取り組む。
新宿区	野村敏之	倫理、家族、仕事が正三角形を成し、中に明朗、愛和、喜働の真円、中心は自分自身の純情な心模様

令和4年度 東京都倫理法人会 年度はじめ式

京王プラザホテル
コンコードボールルーム

9月7日、京王プラザホテルコンコードボールルームにて、令和4年度東京都倫理法人会年度はじめ式が開催されました。今年度も後継者倫理塾修了生が実行委員となり、運営されました。式が始まる前は、倫理研究所・坂元一成首都圏方面副方面長のご指導の下、入念にリハーサルが行われました。「心を合わせる」と「マニュアル通りの運営をすること」など普段の経営者モーニングセミナーの運営でも非常に参考になるリハーサルの運営でした。入念な準備が運営の成功につながることで改めて再認識できる機会になりました。

いよいよ式本番。国家斉唱から始まり、辞令交付、会長挨拶、決意表明、方面担当挨拶、式辞、「倫理17000」認定証授与、活動表彰、認定企業・受賞スピーチ、日本創生の詩斉唱の順に執り行われました。



辞令交付では倫理研究所 前川朋廣副理事長より辞令が交付されました。なぜ辞令が役職者1人1人に配布されるようになったか。その理由は、創始者丸山敏雄先生の時代に、本来委嘱状として渡すべきところを、倫理法人会会員である我々の大先輩方々から「辞令として拝受したい」という要望から始まりました。辞令に対して感謝の気持ちとともに、責任を全うするぞという強い気持ちを参加者全員が持つことができたのではないかと思います。

高嶋民雄会長からは、令和4年度の東京都倫理法人会の活動方針の共有があり、一番大切なことは「目的・目標を達成すること」。そのために、会員全員が正しく学び、正しく実践をして、学んでよかったと心から思うことが大切であると会長挨拶がありました。

その後、藤間秋男幹事長より今年度決意表明

で「目標を必ず達成する」と力強い言葉を拝聴しました。

倫理研究所那須隆首都圏方面方面長からは、泣いても笑っても高嶋会長から学べる期間は残り1年。この1年を大切にしたいと話があり、倫理研究所 前川朋廣副理事長からは「会長を男にしたい。そして、目標達成のために会員一人一人が自主自立することが大切である」というお言葉に、会場の空気がさらに引き締まりました。

コロナ時代が2年目に突入し、さまざまなどに制約条件が課せられ、今までの常識が当たり前ではなくなってきており、その反面、たくさんの新しい常識もできています。昨今の時代でもできることはたくさんあり、原点に立ち返る大切さを改めて学ぶことができました。今年で東京都倫理法人会は40周年を迎えます。40年間、着々と普及し、現在も社数が増えているということは、倫理の学びが世の中に「必要とされている」という結果であると思います。

参加者全員が「正しく学び、正しく実践し、正しく伝える」という高嶋会長から頂いた言葉を実践につなげ、東京都全体と各単会の目標を必ず達成したいという決意を新たにしました。

取材：執筆：石塚正拓（北区④）
撮影：渡辺靖仁（三鷹市②）



第一ブロック決起大会

10月16日、タワーホール船堀大ホールにて、第一回第一ブロック決起大会が開催されました。参加者は城東地区、東部地区、城北地区、中央地区の17単会、総勢222名が参加し、ゲストは20名となりました。

当大会は、6月の三役会議の時に、小林良子第一ブロック長が「各単会の思い、ブランディングを発表する場を作りたい」というひらめきから、その場で会場に連絡するという即行の展開のもとに実現することができました。決起大会は小林良子第一ブロック長と第一ブロック4地区の地区長挨拶から始まりました。

第一部は「単会ビジョン発表」で、開演直前までロビーで熱心にリハーサルを行い、各単会が一丸となって取り組む熱気があふれてきました。17単会が順にきばきと壇上で発表を繰り広げます。

約30名の会員がカラフルな衣装で風船を持った演出、観音様をモデルにした演劇的な発表、「太陽拳」というキーワードをもとにしたコミカルな演劇の発表、規律正しく倫理法人会らしさがにじみ出た発表、ドラえもんに扮した会長の演劇風発表、バットマンの仮面と学生服を着て応援団風など多種多様な方法で決意を伝えていきました。

各単会の発表後、高嶋民雄会長より挨拶と決起大会への感想のお言葉がありました。

第二部は工藤直彦法人スーパーバイザーの講話でした。講話のテーマは「役をととして自己革新をはかる」。まず、桃やスモモの木下には実の美味しさにひかれて集まる人によって自然に道ができてしまうという中国の故事を例にして、自然と人が集まるような徳のある会が倫理法人会であると話しました。続いてマニュアルにもとづいた経営者モーニングセミナーの重要性についての話がありました。具体的にマニ

アルを逸脱している意外な事例に触れ、あらためて問題点に気づかされました。最後に、「役を通して人間力が高まり、自分の器を大きくするチャンスととらえて、お役を依頼されたらハイの実践を行うよう心がけるように」と話されました。

小林ブロック長のひらめきから始まった決起大会は、初の試みに積極的に挑戦し、練習を重ねた各単会の努力が見て取れ、ビジョン達成に向けて気持ちが一つになった素晴らしい大会となりました。

撮影：木村直樹(福生・羽村⑧)、武田光留(墨田区⑧) 執筆：菊池秀夫(いたばし①)



第三ブロック会長合宿 in 青梅市 おくたま路 ～成功者になり、成功者を創る～

紅葉が一気に進む東京都西多摩の山々。昨年に続いて東京都倫理法人会第三ブロック(炎の?)会長合宿が10月16日、17日に青梅市の「おくたま路」で開催され、約30人が参加しました。

会長挨拶に魂を込めよ！ 場を整え、活躍の機会を会員の皆さまへ！

この合宿は第三ブロック内14単会の会長が対象。該当3地区の正副地区長、きらめき委員会スタッフ、ブロック内の都の役職者が応援に入り16日そして17日の朝に、セミナーの講師を務めていただきました。

毎週のモーニングセミナーの「顔」ともなるのは、各単会の「会長挨拶」です。参加者の気持ちをつかみ、そして共に学ぶスタートを会長は担っているという視点から、手本となる会長挨拶を視聴し、本番さながらに各会長がベテランも新人も約5分のスピーチを披露。熱心に耳を傾けていました。

自らの実践や気づきを毎週見つける会長挨拶は、まさに成功者になるための実践。会長挨拶は、「純粋倫理の実践者、体験者として生き生きと自分を話し、参加者を力づける。大変であり、やりがいのあるお役」だと各会長は感じたと感じます。

そして、さまざまな機会で行われる「会員スピーチ」も、会長挨拶を手本に会員が体験を語り「成功への道を歩んでいる」という意識を創作しているのではないのでしょうか。実践と気づき、それを表現する。改めてとても意義ある時間だと感じます。

第二部はキャリア委員会、飯作文俊ブロック担当(副委員長)が「場を整える」をテーマに経営者モーニングセミナーをマニュアルに準じて行う中に、人材が育ちチームワークが生まれていく体験を披露。令和3年度、幹事長として手掛けた東京都のイベント「倫理アライブ10000」の場をいかに整え、プロジェクトをゴールへ導いたのか？その軌跡をお話いただきました。

「後始末」も成功へのプロセス
今年は現地で経営者モーニングセミナー同様

の朝のセミナーもしっかり実施。駆けつけて下さった高嶋民雄東京都会長のあいさつ、小倉裕美、日高新作両相談役の講話をお聞きしました。

シェア会にて2日間の感想とこれからの会長、役員としての思いを参加者全員が発表。「気持ちの後始末」をきっちとしてプログラムを終了しました。

合宿は「倫理活動」、そして「各自の未来」への様々な種(テーマ)を手にしたのでは？そして「行動と実践」という肥料を与え、期末の7月30日は目標達成という実りを持って、収穫祭(「達成祝賀会」)！心の祝杯を組み交わしましょう！

「炎の合宿」を計画した赤木ブロック長、実行委員長を務めた森田多摩西地区長ほかスタッフの皆さま、本当にありがとうございました。

記事執筆：柴崎紀賢(青梅市倫理法人会会長)
写真撮影：ピ・リー(多摩西地区副地区長)



赤坂倫理法人会設立式典

2021年9月14日、京王プラザホテルにて、赤坂倫理法人会設立式典が開催されました。

齋藤智 港区エリア新設単会準備室室長（現・城南副地区長）、川上美保 赤坂倫理法人会会長、岡野誠 専任幹事を中心に会員一人ひとりが「自分ごと」として普及実践した結果、104社にて港区より分封の形で行動旗を授与され、川上会長が大ファンであるミュージシャン・矢沢永吉氏の誕生日と同じ日に設立されました。

川上会長は「共に学び、共に成長、友に笑顔」のスローガンを掲げ、「感謝」と「なぜ自分が倫理活動をしているのか」を素直に伝えた結果、倫理法人会での活動未経験者の方に多くご入会いただきました。そして「ここ、赤坂の地に活動をスタートいたします」と高らかに宣言されました。

記念祝賀会では高嶋民雄 東京都会長の「自信を持って活動して欲しい」という祝辞から始まり、ゲスト出演した狂言師・善竹十郎氏（世田谷区倫理法人会幹事）による祝言の舞「笑い神」、居酒屋甲子園で活躍中の高橋英樹幹事、会員の山崎聡氏、村上博志氏による「2040年の未来予想」、「赤坂倫理法人会へのエール」のテーマでパネルディスカッションが行われました。

そして最後に齋藤室長より「今日が誕生日」の決意とともに、「赤坂の夜明けを祝う式典に 集う武士（もののふ） 明朗の実践」の短歌で式典の幕を閉じました。

取材・執筆 渡辺剛(豊島区⑥)
撮影 満田 三(江戸川区副専任幹事)



日本橋標準倫理法人会開設式典



2021年9月2日、東京都46番目の単会として日本橋標準倫理法人会の開設記念式典が茅場町の東京証券会館ホールに倫理研究所、東京都倫理法人会、各単会の役員、会員、ゲスト120人を集めて開催されました。

式典では国歌斉唱に続き、坂本喜秀専任幹事による日本橋標準倫理法人会設立の経過報告があり、新たな単会の立ち上げに携わった関係者の苦難と喜び、そして今後の決意が語られました。

その後、(一社)倫理研究所常任理事、法人局局长、和田毅普及事業部長より山本光輝会長へ認可証の授与、そして16人の新役職者一人一人に辞令が手渡されました。

最後に日本橋標準倫理法人会山本光輝会長が開設に尽力された方々に謝辞を伝えると共に「老舗企業と若い企業が混ざりあう日本橋で、“やり方”ではなく“あり方”を学ぶ仲間を明朗な雰囲気のもと広げてまいります」という決意表明でこの式典を締めくくりました。

東京都倫理法人会高嶋民雄会長の祝辞で始まった第二部の記念祝賀会は『伝統と革新の和合』をテーマに「丸山敏雄の生涯」と題した日本橋をベースに活動する講談師、神田山緑氏による講談、深川倫理法人会の及川陽子相談役による日本舞踊とシャンソンを中心に活動するアコーディオン奏者、鳥海涼子氏との共演、日本橋の老舗企業の代表(株)山本海苔店の山本貴大社長と若手企業、(株)福水戸家の磯部一郎社長が永続的な経営の秘訣からアフターコロナのDX化の進め方までを語り合う対談など、まさに伝統文化をベースに、常に新たなものを生み出す斬新さと時代の変化に対応する柔軟さを兼ね備えた日本橋の企業を中心に、かつての5街道の起点である日本橋から倫理運動を拡げていこうという日本橋標準倫理法人会のビジョンが具現化された式典でした。

取材・執筆 長尾睦子(日本橋③)

第16期後継者倫理塾、始まる！

10月16日、浅草ビューホテルにて、第16期後継者倫理塾の入塾式が行われました。

東京都倫理法人会の高嶋民雄会長から15名の塾生が一人ずつ入塾証を受け取り、その姿は緊張の中にも誇らしさと、10カ月のプログラムに向けた決意に満ち溢れていました。高嶋会長から「ぜひ楽しんで学んでもらいたい。失敗を恐れずにチャレンジし、一歩踏み出す勇氣を持ってほしい。学ぶよりも実践することを大切に」とのご挨拶をいただきました。また、後継者倫理塾の下原直子塾長は「これから、やってられないと思うことも起きるでしょうが、そんな時は自分に必要なことが起きたと受け止め、実践によって想いを変えてほしい」との激励の言葉で15名を迎えました。

最後に15名が登壇し、塾生の誓いと塾生の信念を高らかに宣言し、式は幕を閉じました。

会場にいたあかちゃんも泣くことなく、のびのびとしつつも、とてもおとなしく過ごしていました。それは会場のビリリとした空気の中にも、和やかな温かさがあったから。

そう思うとほっと良い雰囲気です。素晴らしい式でした。

年齢、職業、入塾の経緯など十人十色の塾生のみなさんが、修了式の日までにどのようなことを経験し成長を遂げるのか、とても楽しみです。

後継者倫理塾は、創業者の精神を受け継ぎ、倫理経営を正しく理解・実践し、健全な企業経営を推進する後継者の育成を図るとともに、倫

理法人会活動を通して人間力を培い地域発展に寄与する人材を養成することを目的としています。

入塾にご興味のある方は、単会会の役員／三役の方にお尋ねください。

執筆：富健太郎(紀尾井町⑧)

撮影：金崎嘉治(品川区①)



突撃！となりの倫友さん

立川・昭島倫理法人会 会員 杉林 強さん



建築業、和太鼓の演奏と指導、そしてラウンジ経営と、多角的に事業展開するJ-TOPグループ代表取締役で立川・昭島倫理法人会会員の杉林 強さん。入会当初は倫理法人会の活動にあまり積極的ではなかったようですが、あることがきっかけで変わったそうです。その理由をお聞きました。

成功に貪欲だった青春時代

「総理大臣並みの収入を得る」という目標を持ち、とび職・大工として経験がない仕事まで受注。当然、できないから最後はプロに頼んで赤字になることも。でもその分、人の5倍は早くプロの仕事を習得できたと思います。

違和感がある仕事こそ受ける

こんな仕事のやり方をしていたのは、自分の壁を破るためにはできないことにチャレンジすると決めていたから。自分がしたことがない仕事って、もやもやとした違和感がありませんか？ 仕

事の先輩からのアドバイスでもある「違和感がある仕事こそ受ける」を実践してきました。

前向きになった理由その① たくさん、褒めてもらえた！

心の勉強をしたいと思ってたどり着いたのが、倫理法人会でした。入会した当初は、いいおじさんが歌を歌ったり、葉を輪読したりすることに違和感がなく、1年半ほど足が遠のいていました。そんなときにある会員からモーニングセミナーの講話を頼まれました。経営者は、できて当たり前で褒めてもらうことってほとんどありません。ところが講話をすると、皆に褒めてもらえたので、居心地が良くなってしまいました。

前向きになった理由その② 実践なくては成長なし！

その後、『万人幸福の葉 解説』を紹介され、読みすすめると自分がポリシーにしていた「違和感がある仕事こそ受ける」ことこそ、倫理の

「実践」だと気づきました。5歳から続けている和太鼓。自分の子供たちにも音を思いっきり出させて練習できる環境を用意したいと思い、指導を始め、積極的に挑戦してきました。違和感があるときこそやってみること。これが何よりも成長につながると思っています。

まとめ

倫理法人会で本腰を入れて学ぶことにより、自分自身のこれまでの取り組みの答え合わせができた、と杉林さんは話してくれました。そんな杉林さんの最近の実践は、広報委員会の参加と委員会活動でカメラ撮影の依頼をハイ！と引き受けたことだそうです。皆さんも違和感がある仕事 came ときこそハイ！の実践をしてみたいかがでしょうか？

取材：福島理恵子（世田谷区①）、菊池秀夫（いたばし①）、伊藤はるみ（中野区①）、
撮影：伊藤はるみ（中野区①）
執筆：福島理恵子（世田谷①）、菊池秀夫（いたばし①）、渡辺淳史（深川①）

編集後記

3名の社長インタビューに立ち会い、共通点は明朗と魅力的な雰囲気をお持ちであることでした。木村直樹（福生・羽村⑧）広報の一員になって世界が広がりました。成功者の方のお話や文章と向き合う楽しさは格別です。大西規子（千代田区⑤）練馬区で一緒だった、秀樹会長の取材は最高に楽しかったです。取材中の笑顔と内容が素敵です。小林英司（練馬区③）素晴らしい取材の機会をいただいたことに感謝です。広報委員の役得を堪能させていただきました。井田孝（中野区⑥）中嶋会長の取材を通じ、素直に倫理指導を実践することで経営が改善される事を再認識しました。亘崇広（港区③）明朗 愛和 喜働を体現される社長へのインタビュー！リアルな場で得られる学びは大きかったです。秋元亜希（文京区⑥）最近、傾聴力を意識しています。リアルな取材でも役立ち、より大きな学びを頂きました！金崎嘉治（品川区①）今回の取材で、十七箇条（万人幸福の葉）の中に＜成功哲学＞があると気づきました。実践します！小林由香（むさしの吉祥寺④）取材及び記事作成を通じて、私自身もリーダーとしての在り方を、見つめ直すことができました。由良雅砂（むさしの吉祥寺②）いかにして自分や他の方の考えを上手く伝えるか？とても良い学びとなりました。宮本早苗（新宿区⑧）成功者の哲学はやはり一味違う、直接聞ける機会に恵まれ感謝です。松本ひろし（中央区⑤）今回、成功とは何なのかを改めて考えてみるいい機会になりました。ありがとうございました。森田邦彦（副委員長）このメンバーではじめて作り上げたGM。作成にご協力頂いた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。山本博基（広報委員長）

東京都倫理法人会の皆様へ

安心のサービスをご提供いたします。

葬祭業安心度調査AAAの東京葬祭が
明瞭なお見積りと豊富な経験・実績でお応えします。

ご葬儀は安心して任せられる

東京葬祭

もしもの時は、セレモニーコールセンターへ。

☎ 0120-88-6111 年中無休 24時間受付

お問合せの際は「倫理法人会会員」とお伝えください。

- 倫理法人会ご優待内容
- ・葬儀基本セット 30%OFF
 - ・供花(御葬家分) 10%OFF
 - ・仏壇、仏具、墓石 各種割引

社長が読むべき厳選3冊!

TOMA100年企業創り
コンサルタンツ
代表 藤間秋男

藤間秋男 オンラインセミナー

社長引退勧告出版セミナー

2022年1月25日(火)

今日から30年続く! つぶれない! 企業創り10ヶ条セミナー

2022年2月17日(木)

セミナーの詳細はこちら ▶



どこでも出張バーベキュー!

食材 備品 機材

手ぶらで 3,850円 (税別)

すべてセットになった! 10人まで

食材のみの配達・大型案件も対応しております。

03-5879-4503

東京都江戸川区中央 2-31-10-101
B80太郎 東京江戸川店

【営業時間】AM10:00~PM21:00 年中無休

満員御礼 講演会好評でした

主催: 杉山区西倫理法人会

感謝を込めて公開!
聞くだけで
経営の神様が
降りてくる
伝説の音声(フル)を
プレゼントスマートフォン
のカメラでQRコードを
読み取ってください

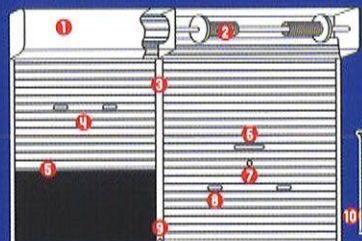
「今に生きる」
今がチャンスだ。今が最善。
今の中に過去のすべてが入っている。
今の中に未来のすべてが入っている。
今を変えれば過去のすべてが変わる。
今を変えれば未来のすべてが変わる。
今を変えれば周りのすべてが変わる。
今に生きたら生命が活動する。
今に生きたら魂が輝く。
今こそチャンスだ。
今こそ縁がある。
自己を変えるチャンスは今しかない。
今、今、今の中にすべてがある。
今、決意せよ。今、行動せよ。
今、すぐ変われ。
人生とは今のことというのだ。
過去のことをグズグズ悩むな。
過去はどこにもないのだ。
未来はどこにもないのだ。
今の中に過去も未来もあるのだ。
今に感謝せよ。今を愛せよ。
すべてが完全なのだ。
今は宇宙のことをいうのだ。
ありがとう。ありがとう。
今に感謝。
佐藤康行

お問い合わせとお申込みは、☎電話、WEBのいずれかにて

〒1350033東京都江戸川区深川丁5-5 真貨ビル5階

TEL 08 0-3 9 1 3-2 0 4 1 事務局直通 (平日6時~18時) メール info@ys-consultant.com まで

重いシャッターすぐ電話 ☎ 中央シャッター10のOK!



上下シャッターの修理営繕はおまかせ!

- | | | |
|-----------------|------------------|----------------|
| ① ケース板だけでも取替OK! | ⑤ 水切だけでも取替OK! | ⑨ 埋め金だけでも取替OK! |
| ② パネだけでも取替OK! | ⑥ ポストだけでも取替・取付OK | ⑩ フック棒だけでもOK! |
| ③ 中柱だけでも取替OK! | ⑦ カギだけでも取替・取付OK! | |
| ④ スラットだけでも取替OK! | ⑧ 手カケだけでも取替OK! | |
- ※その他、困った事は
なんでもご相談ください。

1970年創業
どんな些細な仕事でも
喜んでさせていただきます。(株) 中央シャッター
(株) 中央テント

03-3605-0700



公式 LINE



公式 Facebook



公式 YouTube



公式 Instagram

東京都倫理法人会
公式アカウント
ぜひご登録を!